

WHC OB/OG 会メモ

WHC 内での同期会開催状況報告

3、4、5、および6期生代表の方々からそれぞれの同期会の現状を紹介いただきました。

そもそも同窓会、OB/OG会を開催する意義は何なのか？

Yahoo、Googleの検索欄に「同窓会」or「OB会」 & 「意義」を入れてみますと、出て来るは出て来るは……。

中には易しいことを敢えて難しく考えているような「大学における同窓会組織の今日的意義」(東京学芸大)なる表題のガクジュツ的論文までが出て参りましたが、主流的な意見は、「気楽に情報交換ができる場であれば良いのであってわざわざ難しく考える必要はない。」というものでした。

同窓会とは、「異なる世代間の情報交流の場」、「出身母体への忠誠心回復の場」、「心の危うい均衡を回復する場」、「青春へタイムスリップする場」、果ては「仲間たちの生存確認の場」といったものなど色々あります。

「OB/OG会に期待するもの、それは人それぞれに違って良い。」ということが「わざわざ難しく考える必要はない。」という言い回しにリンクしているのでしょ

ところで集まりが長きに亘って存在し続けるためには何が必要なのでしょうか。幾つかの同窓会/OB会に関わってきた経験から私見を申し述べますと、次の三つの要件；

- ① 柱(主導的人物)の存在、或いは大義名分(理念)の存在
- ② こまめな企画・連絡役の存在
- ③ 話題の多様性

を挙げられるのではないかと考えております。

4期生の同期会は、持続性、動員率という観点からしても、他期生にとってのベンチマーク的な存在になりつつあるように思えます。

4期生の皆様、一手ご指南のほどを。

世代幅を少し広げた交流を目指す今回の「同窓会」は、性格的には期別の「同期会」とバッティングするものではなく、むしろ補完関係となるような形で運営できればと良いなと漠然と考えております。

理屈っぽく考えるのは苦手ですので、色々皆さんの意見を伺いながら今後を考えたく存じます。

やっぱり病気/健康の話題で、年長組からの近況紹介の火蓋は切られました。

ゼンリツセン？ もしかするとJR東海が新たに運行しようとしている前橋一立川直結ラインのこと？ でも中央線のあの過密運行ダイヤを考えれば混乱のガンになるのでは？

カテーテル？ もしかすると住宅メーカーが提唱する省エネ高輝度 LED 照明システムを全面採用した次世代ハウスのブランド名かな？ 「家庭照る」若者にとっては当面関わりないこの二つの医療用語も、高齢者間では常用語。

それにしても前立腺手術の仕方にも品格レベルがあるというお話し、はたまたこの病気を体験しない限り本当の男ではないかのような過激発言を拝聴するに及んでは深い感迷に襲われました。

早く前立腺を切り、早くカテーテルを体内に入れることで、世間から畏敬の念をもって見られるリッチな高年男子にならなくてはとの焦りが出ます。

自己紹介もコの字型テーブルを順に半周していよいよ若手登場、期待していた通り、新鮮な話題も紹介されました。

現役者と退役者の混在する、言ってみれば端境期での交流であってみれば、話題の拡がりが出るのは当然のことなのかも。

例えば高田邦夫さんの「男手一つでの子育て哲学」のお話しなどはとても聞かせるお話しでした。

何時もとはちょっと違う顔が一緒になるということで生じる適度の緊張感もまんざら悪いものではないですね。

この1~6期生合同OB/OG会開催は、筆者と同じ街に住む5期の清水正弘さんが世代間の橋渡し役を請負って頂いたことで実現したと言えるものでして、彼のサポートなしにはこれだけの顔ぶれが揃うことはなかったことでしょう。

スライド「イースター島での皆既日食」(西海さん)

興味深いお話し、そしてちょっと学術的雰囲気にも浸れてこの会合に華を添えていただきました。

決定的瞬間を自分の目で確かめ、またその画像記録をしっかりと撮り収めるため、時/場所を選ばずそして金に糸目をつけず現地に駆け付ける Eclipse Hunter たちの気持ちは何となく理解できます。

21世紀に起こる皆既日食は75回とか、来年はオーストラリアで見られるとのことのお話しでしたが、追い掛けるにも結構忙しいものですね。

のですが、実はイースター島の「モアイ像修復プロジェクト」に力を貸したのはコマツと、この7.8年勘違いしたままでいたのです。

それだけなら未だしも、社会貢献の好事例として「コマツのモアイ像修復」をあちこちのお手伝い先企業に吹いて回っていたのですから本当にコマツた話。被害者数は恐らく10人を下らないでしょう。

望むらくは被害者たちがこの誤情報を既に忘却の彼方に置き去っていることを。海を跨いだ社会貢献、タダノも只のタダノじゃないというわけですね。

スライドショー「黎明期のWHC会員 黄昏期へ向かうも元気」

前篇同様、5,6期生活動記録の網羅度が低く、食い足りない印象は免れなかったのですが、もし同期会などで諮っていただいた上で追加画像情報を提供いただけるということになりましたら、喜んでそれらを取り込み1-6期生用としてもっと充実したスライドショーに改編する用意がございます。ひとつご検討のほどを。

当日、思いがけずも6期生の永島雄三さんから「WHC創立30周年記念行事」のミニアルバムを提供いただきました。

これまで会員の誰にこの写真の存在を尋ねても、「30周年はやったっけかなあ？」首をかしげるだけでしたが、やっぱり有ったのです。

早速取り込ませていただきます。

以上

[お詫び2件]

欠席された3期生の皆様へ

今回は3期生の皆様には、同期会直後の同窓会開催としてしまったことで参加し難い状況を作ってしまったことお詫びいたしたく。

次回は事前確認を怠らぬよう心掛けます。

今回の参加者の皆様へ

前回に引き続き、食事代(サンドイッチ代)を読み誤り会費を取り過ぎました。会計報告は後日させていただきますが、剰余金の一部を使って記念写真のプリント作成・送付、そして事務局の勝手ながら、欠席された方々20余名へのアーカイブ収録ディスク宅配料金に充当させていただきますのでご了承ください。三度目の今回は、もっと精度ある会費請求をさせていただきます、サンドイッチのために三度不一致(サンドフイッチ)とならぬよう留意いたします。